



[原著]

双子を妊娠した女性の産前産後のケアニーズの比較： 横断的調査

藤井美穂子¹⁾、相澤恵子²⁾、米倉佑貴³⁾

1) 帝京科学大学 医療科学部看護学科

2) 湘南医療大学 保健医療学部看護学科

3) 聖路加国際大学 大学院看護学研究科

要旨

双胎妊娠は単胎妊娠と比較して母体および新生児の双方に高いリスクを伴う。双胎妊娠している女性は妊娠中から出産後にかけて長期にわたり心理的負担を抱えることが多く、継続的な支援の必要性が示唆されている。本研究は、帰納的研究（藤井，2021）で示された ART 後双胎妊娠女性のケア期待が自然妊娠例にも共通する可能性を仮定し、双胎妊娠女性が助産師や看護師に期待するケアを明らかにし、妊娠中と出産後のケアニーズを比較して継続支援のあり方を検討することを目的とした。

本研究は、双胎妊娠女性が助産師・看護師に期待するケアを把握することを目的とした横断的調査による量的記述的研究である。対象者は全国の多胎サポートグループ会員および出産後ケアサービス利用者である。調査は 2021 年 7 月から 2022 年 12 月にかけて無記名自記式の Web 調査として実施した。質問紙のケア項目は、帰納的研究（藤井，2021）で示されたケア期待を参考に、研究分担者間で内容の妥当性を協議したうえで作成した。質問紙は妊娠中、出産後から退院するまでの産褥早期、施設間連携に関する 28 項目で構成され、5 件法で評価した。妊娠中と出産後との間で、各ケア項目の平均値を比較するため 2 標本の t 検定を用いた。

回答者 273 名のうち妊娠中 24 名 (8.8%)、出産後 249 名 (91.2%) であった。妊娠中の女性では「リスク情報への関心」の希望度が出産後の女性よりも有意に高く、出産後の女性では「出産までの努力を認め共感する関わり」が妊娠中の女性よりも有意に高く、妊娠中・出産後でニーズが異なることが明らかとなった。双胎を妊娠中の女性は自分に起こり得るリスク情報を求め、出産後の女性には休息の確保や情緒的支援を望む傾向がみられた。これらの結果から、双胎妊婦への継続的ケアでは安心感と心理的安寧感 (well-being) を支える支援の重要性が示唆された。

キーワード：双子、双胎妊娠、ケアニーズ、周産期ケア、横断的調査

1. 緒言

双胎妊娠は単胎妊娠に比べ母子双方に高い健康リスクを伴うことが知られている。

日本における双胎妊娠の早産率は約 50% と高く、新生児期の合併症リスクも増加することが報告されている (米田, 2022)。

藤井美穂子
〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1
帝京科学大学医療科学部看護学科

2025 年 11 月 6 日受付
2026 年 2 月 12 日受理

e-mail: m-fujii@ntu.ac.jp

母体では妊娠高血圧症候群や切迫早産などの合併症が多く認められる (林・中井・松田、2012)。

また、双胎を妊娠した女性は妊娠の診断時から出産に至るまで長期間にわたり強い不安やストレスを抱きやすく、この心理的負担はメンタルヘルスへの影響 (Susan et al., 2015) にとどまらず、双胎家庭における乳幼児虐待との関連が報告されている (Ooki, 2013 ; Yokoyama et al., 2024)。

近年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により集団指導や多胎クラスが中止され、妊婦同士の交流機会が減少したことから、妊娠中から産後にかけての精神的負担が増大し、双胎妊娠女性に対する継続的かつ多面的支援の必要性が高まった。

生殖補助医療 (ART) による双胎妊娠では長期の不妊治療や流産経験を経て妊娠に至る場合が多く、不安が強い傾向がみられる (藤井、2014; van den Akker et al., 2016; Vilska et al., 2009)。

本研究は、帰納的研究 (藤井、2021) で示された ART 後双胎妊娠女性のケア期待が自然妊娠例にも共通する可能性を仮定し、双胎妊娠女性が助産師や看護師に期待するケアを明らかにすることを目的とした。さらに妊娠中から出産後へ移行する過程において、継続的に生じるニーズと変化するニーズを把握することは、妊娠中から一貫した支援計画や情報共有を含む継続支援の設計に資するため、妊娠中と出産後のケアニーズを比較して継続支援のあり方を検討した。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

横断的調査による量的記述的研究

2. 対象者

全国の多胎サークルに所属している、もしくは助産院の出産後ケアを利用している双胎妊婦及び双子を出産した女性を対象者とした。

3. 研究手順

1) 調査の実施方法

本調査は、各対象者が調査期間中に 1 回、

回答時点の状況 (妊娠中または出産後) に基づいて回答する横断的調査として実施した。妊娠中から出産後への移行に伴いニーズが変化する可能性があるため、回答時点が妊娠中の者と出産後の者の 2 群に分け、当該時点でのケアニーズの特徴を比較した。

2) リクルート方法

(1) 日本多胎支援協会に加盟している全国多胎サークル

全国の 143 多胎サークルのうち、連絡先を確認できた 38 サークルに対し、研究協力依頼用紙 106 部を郵送した。また、メールでの送付を希望した 8 サークルには、研究協力依頼文および Web ベースの調査票作成サービスを用いた Web アンケートの URL (QR コード) を電子的に送付した。各サークルの管理者を通じて、研究の主旨および調査内容がメンバーに周知され、対象者は各自の端末から匿名で回答した。その結果、全国多胎サークルを通じて 64 名の回答が得られた。

なお、多胎サークルの会員数は各サークルにより変動が大きく、調査期間中は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限・自粛されていたため、各サークルにおける実質的な周知人数や母集団規模を正確に把握することは困難であった。

当初は研究対象者を「出産後 1 歳まで」としていたが、コロナ禍の影響により対象者の確保が困難であり、2022 年より対象者を「出産後 3 歳まで」に引き上げた。

(2) 助産院および産後ケア事業所の利用者

2022 年より対象者を「出産後 3 歳まで」に拡大したことに伴い、助産院および産後ケア事業所の利用者を対象に追加した。助産院や産後ケア等 33 か所に研究協力依頼文を送付し、機縁法により Web ベースの調査票作成サービスを用いた Web アンケートの URL (QR コード) を案内した。対象者は各自の端末から匿名で回答した。

一方で、助産院・産後ケア利用者を含む残り 213 名の回答者については、複数の周知経路 (施設内掲示、SNS 等) を介して回答が得られたため、調査案内が到達した対象者数 (母集団) を算出することは困

表 1. 対象者の属性

	妊娠中 (N=24)		出産後 (N=249)		全体	
	n	%	n	%	n	%
年齢						
10代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20歳～25歳	1	4.2	4	1.6	5	1.8
26歳～30歳	5	20.8	44	17.7	49	17.9
31歳～35歳	12	50.0	95	38.2	107	39.2
36歳～40歳	4	16.7	75	30.1	79	28.9
41歳以上	2	8.3	31	12.4	33	12.1
職業						
会社員	13	54.2	116	46.6	129	47.3
公務員	1	4.2	27	10.8	28	10.3
自営業・自由業	3	12.5	7	2.8	10	3.7
専業主婦	4	16.7	74	29.7	78	28.6
パート	3	12.5	22	8.8	25	9.2
その他	0	0.0	3	1.2	3	1.1

※同居家族の人数：出産後は双子を含む人数。

難であり、個々のリクルート経路を特定することも困難であった。

4. データ収集期間

データ収集期間は2021年7月～2022年12月である。

5. 調査項目

基本属性に関しては、年齢、職業、を尋ねた。妊娠までの状況に関しては、不妊治療の経験(体外受精・顕微授精)の有無、不妊治療の期間について尋ねた。妊娠中の状況に関しては、妊娠した回数、子どもの卵性、妊娠週数、管理入院の有無や予定などについて尋ねた。出産から退院の状況に関しては、分娩様式、出産後の入院期間、出産後の経過などについて尋ねた。

双子を妊娠した女性が期待するケアに関する調査項目は、ART後に双胎妊娠した女性が期待する助産ケアを検討した帰納的研究(藤井, 2021)で抽出されたケア期待を基盤として作成した。具体的には、妊娠中に助産師・看護師に希望するケア(8項目)、出産後から退院するまでの産褥早期に助産師・看護師に希望するケア(14項目)、妊娠・分娩・育児を支援する施設(病院や地域保健センター等)間の情報共

有に関して希望するケア(6項目)の3領域、計28項目で構成した。各項目について、希望の強さを「希望する(5点)」から「希望しない(1点)」の5件法で尋ねた。

妊娠中のケア項目には、「双子妊娠に伴うリスクについての情報提供」「双子との生活をイメージできるような支援」「妊娠に対する不安を軽減する関わり」などを含めた。産褥早期のケア項目には、「出産後の休息時間の確保」「痛みを和らげるケア」「家族でゆっくり面会できるような配慮」などを設定した。また、施設間連携に関する項目には、「妊娠中から出産後にかけて情報の継続的な共有」や「地域の子育て支援サービスに関する情報提供」などを含めた。

各調査項目は、研究分担者間で内容の妥当性について協議を行い、表現および項目構成を調整したうえで確定した。さらに、双子を妊娠した女性が求めるケアについて、自由記述形式での回答も求めた。

6. 分析方法

分析には、統計ソフト SPSS (Statistics Package for the Social Sciences) Ver.27

表 2. 妊娠・分娩に関する状況

項目	妊娠中 (N=24)		出産後 (N=249)		全体	
	n	%	n	%	n	%
【妊娠までの経過】						
排卵誘発法の経験あり	14	58.3	108	43.4	122	44.7
人工授精の経験あり	8	33.3	80	32.1	88	32.2
不妊治療クリニック受診から双子を妊娠するまでの期間						
6か月未満	10	55.6	16	12.2	26	17.4
～1年未満	6	33.3	45	34.4	51	34.2
1～2年未満	2	11.1	25	19.1	27	18.1
2～3年未満	0	0.0	25	19.1	25	16.8
3年以上	0	0.0	20	15.3	20	13.4
【出産までの状況】						
双子の卵性						
一卵性	3	12.5	97	39.0	100	36.4
二卵性	19	79.2	144	57.8	163	59.3
不明	2	8.3	8	3.2	10	3.6
妊娠週数						
～妊娠 15 週	2	8.3	-	-	-	-
妊娠 16 週～27 週	11	45.8	-	-	-	-
妊娠 28 週～35 週	8	33.3	-	-	-	-
妊娠 36 週～42 週	3	12.5	-	-	-	-
出産時の週数						
28 週未満	-	-	2	0.8	-	-
28 週～32 週未満	-	-	11	4.4	-	-
32 週～34 週未満	-	-	16	6.4	-	-
34 週～37 週未満	-	-	97	38.6	-	-
37 週～42 週未満	-	-	125	49.8	-	-
42 週以降	-	-	0	0.0	-	-
妊娠中の管理入院の有無と予定						
管理入院はしなかった(予定していない)	16	66.7	89	35.7	105	38.5
管理入院をした	4	16.7	160	64.3	164	60.1
これから管理入院を予定している	4	16.7	0	0.0	4	1.5
【出産から退院の状況】						
分娩様式						
予定帝王切開術	-	-	150	60.2	150	60.2
緊急帝王切開術	-	-	80	32.1	80	32.1
経膣分娩と緊急帝王切開術の両方	-	-	3	1.2	3	1.2
経膣分娩	-	-	16	6.4	16	6.4
出産後の入院期間						
4 日以内	-	-	3	1.2	3	1.2
5～6 日	-	-	107	43.0	107	43.0
7～8 日	-	-	103	41.4	103	41.4
9～10 日	-	-	21	8.4	21	8.4
11 日以上	-	-	15	6.0	15	6.0
出産後の経過						
順調だった	-	-	175	70.3	175	70.3
どちらともいえない	-	-	44	17.7	44	17.7
順調ではなかった	-	-	30	12.0	30	12.0

を使用した。各変数の記述統計量を算出した。また、女性が期待するケア全 28 項目 (5 件法: 1～5 点) について、「妊娠中」と「出産後」の 2 群間で、各項目得点の平均値を比較するため、2 標本の t 検定を行った。

7. 倫理的配慮

本研究の調査票には研究に「はい、参加します」のチェックボタンを押下したことをもって研究協力への同意が得られたとみなした。対象者には、調査目的、内容、調査協力は自由意思であることについて文書

で説明した。研究者の所属機関の人を対象とする倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号 2122-2)。

III. 結果

1. 対象者の概要

277 人から回答を得た。本研究では、三つ子の母親 2 人と未記入項目があった 2 人を除いた 273 人を分析対象とした。

回答時に双子を妊娠中の女性が 24 人 (8.8%)、出産後の女性が 249 人 (91.2%)

表3 妊娠中か出産後かによるケアニーズについてのt検定項目

	妊娠中 (N=24)		出産後 (N=249)		t	p
	M	SD	M	SD		
妊娠中、助産師や看護師に希望するケア						
双子の妊娠のリスクについて心配な気持ちを聞いてほしい	4.00	1.25	4.46	0.77	-2.60	0.00
双子の妊娠について肯定的に受け止められるような関わりをしてほしい	4.08	1.35	4.47	0.90	-1.39	0.09
双子の妊娠のリスクについて情報の共有ができるようにしてほしい	4.88	0.34	4.63	0.66	3.08	0.00
双子を妊娠した後に安心感が得られるよう配慮してほしい	4.46	1.02	4.64	0.69	-0.87	0.20
双子の妊娠に対する不安を取り除くための説明をしてほしい	4.58	0.65	4.56	0.72	0.17	0.43
双子の出産について自分に起こり得る情報を教えてほしい	4.83	0.48	4.73	0.57	0.85	0.20
双子との生活がイメージできるような支援をしてほしい	4.75	0.68	4.69	0.65	0.43	0.33
妊娠中から双子の母親同士の交流を促してほしい	4.38	0.88	4.49	0.79	-0.67	0.25
合計	4.49	0.54	4.58	0.47	-0.88	0.19
出産後から退院するまでの産褥早期、助産師や看護師に希望するケア						
痛みを和らげるケア	4.75	0.53	4.72	0.52	0.24	0.40
出産後の休息時間の確保	4.71	0.86	4.89	0.36	-1.01	0.16
緊張感を解くような心配り	4.46	0.72	4.63	0.62	-1.31	0.10
出産までの努力を認め、共感した関わり	4.17	0.87	4.55	0.72	-2.44	0.01
双子の生命力を実感できるような関わり	4.25	0.85	4.50	0.77	-1.49	0.07
無事に出産するまでの気持ちを出産後にゆっくり聞いてほしい	3.54	1.32	3.94	1.05	-1.42	0.08
双子の母乳育児ができるような手助け	4.33	1.05	4.33	0.94	0.04	0.48
双子と一体感が得られるような関わり	4.08	0.88	4.25	0.85	-0.93	0.18
母親としての役割に自信がもてるような支援	4.38	0.82	4.41	0.75	-0.24	0.41
双子の育児の楽しさを実感できる支援	4.58	0.78	4.67	0.61	-0.65	0.26
家族でゆっくり面会できるような配慮	4.88	0.45	4.81	0.49	0.66	0.26
双子育児の孤独を理解した関わり	4.58	0.78	4.67	0.67	-0.63	0.27
双子のためにベストを尽くしたい気持ちを理解した関わり	4.21	0.98	4.55	0.69	-1.67	0.05
双子との豊かな時間を過ごすための配慮	4.58	0.83	4.65	0.64	-0.51	0.31
合計	4.39	0.55	4.54	0.43	-1.57	0.06
妊娠・分娩・育児を支援する施設同士の情報共有についての希望						
妊娠が判明後（妊娠前からの情報を含む）、出産する病院までのあなたの情報を施設間で共有してほしい	3.83	1.20	4.19	0.94	-1.72	0.04
あなたの妊娠・出産などの情報を退院後も施設間で共有してほしい	3.79	1.18	4.04	0.98	-1.14	0.13
妊娠中に管理入院した病棟と出産後の病棟で、あなたやお子様様の情報を共有してほしい	4.46	0.78	4.43	0.81	0.14	0.44
出産した病院と地域保健センター等の行政機関で、あなたやお子様様の情報を共有してほしい	4.33	0.82	4.24	0.90	0.48	0.31
地域の子育て支援サービスについて、情報を教えてほしい	4.79	0.51	4.80	0.46	-0.12	0.45
管理入院中に担当していた助産師（看護師）に出産後も継続的に関わって欲しい	4.04	0.86	3.94	1.02	0.47	0.32
合計	4.21	0.60	4.27	0.62	-0.49	0.31
全項目	4.38	0.50	4.50	0.37	-1.08	0.14

であった。回答者の年齢は「31歳～35歳」が107人（39.2%）と最も多く、続いて「36～40歳」79人（28.9%）であった（表1）。不妊治療の経験がある女性が149人（54.6%）おり、ARTの経験（体外受精または顕微授精）がある女性が85人（31.1%）であった。

妊娠までの経過、出産までの状況、妊娠後の状況については表2に示す。

2. 助産師や看護師に希望するケア表3

1) 妊娠中に助産師や看護師に希望するケ

ア

「妊娠中に助産師や看護師に希望するケア」について、妊娠中の女性（24人）の群において得点が高いケアは、得点が高い順に「双子の妊娠のリスクについて情報の共有ができるようにしてほしい」（4.88点）、「双子の出産について自分に起こり得る情報を教えてほしい」（4.83点）、「双子との生活がイメージできるような支援をしてほしい」（4.75点）であった。出産後の女性（249人）では、「双子の出産につい

て自分に起こり得る情報を教えてほしい」(4.73点)、「双子との生活がイメージできるような支援をしてほしい」(4.69点)、「双子を妊娠した後に安心感が得られるよう配慮してほしい」(4.63点)であった。

妊娠中に回答した群と出産後に回答した群の2群間比較では、3項目において統計学的有意差が認められた。一つ目は「双子の妊娠のリスクについて心配な気持ちを聞いてほしい」であり、妊娠中に回答した群(4.00点)よりも出産後に回答した群(4.46点)の得点が有意に高かった($p < 0.001$)。同様に、「双子の妊娠について肯定的に受け止められるような関わりをしてほしい」は、妊娠中に回答した群(4.08点)よりも出産後に回答した群(4.47点)の得点が有意に高かった($p = 0.002$)。一方、「双子の妊娠のリスクについて情報の共有ができるようにしてほしい」は、出産後に回答した群(4.63点)よりも妊娠中に回答した群(4.88点)の得点が有意に高かった($p < 0.001$)。

2) 出産後から退院するまでの産褥早期、助産師や看護師に希望するケア

「出産後から退院するまでの産褥早期、助産師や看護師に希望するケア」について、妊娠中の女性(24人)の群において得点が高いケアは、得点が高い順に「家族でゆっくり面会できるような配慮」(4.88点)、「痛みを和らげるケア」(4.75点)、「出産後の休息時間の確保」(4.71点)であった。出産後の女性では、高い順に「出産後の休息時間の確保」(4.89点)、「家族でゆっくり面会できるような配慮」(4.81点)、「痛みを和らげるケア」(4.72点)であり、上位3項目は妊娠中の女性と出産後の女性の間で一致した。なお、「双子との豊かな時間を過ごすための配慮」についても、妊娠中の女性(4.58点)、出産後の女性(4.65点)ともに高い得点を示し、産褥早期における重要なケアニーズの一つであることが示された。

妊娠中に回答した群と出産後に回答した群の2群間比較では、統計学的有意差が認められた項目は1項目であった。具体的には、「出産までの努力を認め、共感した関

わり」は、妊娠中に回答した群(4.17点)よりも出産後に回答した群(4.55点)の得点が有意に高かった($p = 0.001$)。なお、「双子のためにベストを尽くしたい気持ちを理解した関わり」(妊娠中に回答した群4.21点、出産後に回答した群4.55点、 $p = 0.05$)、「双子の生命力を実感できるような関わり」(妊娠中に回答した群4.25点、出産後に回答した群4.50点、 $p = 0.07$)、「無事に出産するまでの気持ちを出産後にゆっくり聞いてほしい」(妊娠中に回答した群3.54点、出産後に回答した群3.94点、 $p = 0.08$)は、いずれも統計学的有意差は認められなかったが、出産後に回答した群の得点が妊娠中に回答した群より高い傾向を示した。

3) 妊娠・分娩・育児を支援する施設同士の情報共有についての希望

「妊娠・分娩・育児を支援する施設同士の情報共有についての希望」について、妊娠中の女性の群において得点が高いケアは、得点が高い順に「地域の子育て支援サービスについて、情報を教えてほしい」4.79点、「妊娠中に管理入院した病棟と出産後の病棟で、あなたやお子様の情報を共有してほしい」4.46点、「出産した病院と地域保健センター等の行政機関で、あなたやお子様の情報を共有してほしい」4.33点であった。出産後の女性の群においては、「地域の子育て支援サービスについて、情報を教えてほしい」4.80点、「妊娠中に管理入院した病棟と出産後の病棟で、あなたやお子様の情報を共有してほしい」4.43点、「出産した病院と地域保健センター等の行政機関で、あなたやお子様の情報を共有してほしい」4.24点であり、3項目が同順位であった。

妊娠中に回答した群と出産後に回答した群の2群間比較では、「妊娠が判明後(妊娠前からの情報を含む)、出産する病院までのあなたの情報を施設間で共有してほしい」に統計学的有意差が認められ、妊娠中に回答した群(3.83点)よりも出産後に回答した群(4.19点)の得点が有意に高かった($p = 0.04$)。

IV. 考察

妊娠中の女性は出産後の女性と比較して、妊娠のリスクに関する情報提供を「希望する」割合が高い傾向にあった。ART後に双胎妊娠した女性に関する先行研究では、最悪な事態を考えて健康な我が子を想像することを抑制したり（藤井、2014）、子どもを失うことの予期的不安と共存したりするため、何があっても受け入れる覚悟を忘れないために自らリスク情報を探しに行く母親の対処行動を取る（藤井、2021）ことが明らかとなっている。この妊娠中にリスク情報を求める特徴は、不妊治療の経験に起因して、妊娠中の不確実性が強く意識され、予期的不安などの心理的負担が増大することに関連したものだと捉えられていた。しかし、本研究結果では、自然妊娠により双胎を妊娠した女性であってもART後の女性のようなリスク情報を希望することが明らかとなった。これは、自然妊娠かART後の双胎妊娠かというARTの有無だけでなく、複数の早産児を出産・養育する可能性のある全ての双胎妊婦のケアを行う上で配慮すべき項目であり、個々の異なる経過や不安に寄り添う等の双胎妊娠までの女性の経験や経過に合わせてケアを調整することの重要性が示唆された。

また、Bowlby (1958) は、人が不安や恐怖を感じた際に特定の他者 (attachment figure) へ接近し安心感を得ようとするアタッチメント (attachment) の枠組みにおいて、出生後に子どもが特定の1人に選択的に向かいやすい傾向を単向性 (monotropy) と名付けている (p. 370)。この理論を用いて Klaus & Kennell (1982) は、双子の場合は退院が遅れた子どもに対して親が非常に高い率で母性的養育に障がいをもたらすことから、親が子どもとの間に絆を形成する過程でも単向性が観察でき、母親は妊娠後期に1人の子どもに1つのイメージ、あるいは絆を受け入れることしかできない可能性があることを指摘している (pp. 83-84)。つまり、双胎妊娠した女性は、妊娠中に2人の子どもをイメージすることが困難であることが考えられる。妊娠中に希望するケアとして

「双子との生活がイメージできるような支援をしてほしい」という項目も希望が高値であったことは、妊娠中にイメージできにくかった双子との生活が退院後に急に始まることからニーズが高い結果となったと考察する。双胎妊婦だけでなく夫や家族員に対しても、妊娠中の外来受診時や両親学級を通して、出産後の生活を具体的にイメージできるような支援を行い、家族全体で育児に取り組めるようにする必要がある。

双胎妊娠・多胎家庭では、妊娠中から出産後にかけて医療的・生活的課題が同時並行で生じやすく、家族が「二人分の育児」を見通して準備できるかどうか、出産後の負担感や支援の受け取りやすさに影響する。多胎家族への支援では、多職種・家族・多胎コミュニティの関与、多胎に特化したケア、サービスの調整、家族のコンピテンシーの構築という4原則が重要とされている。

近年、双胎妊婦を対象者とした出産準備教室・両親学級等では、同じ状況にある家族との情報共有や地域支援との接続を通じて、出産後の生活を具体的にイメージしやすくする取り組みも報告されている (藤井, 2021)。また、双胎では授乳・育児の困難が生じやすいため、妊娠中からの先見的な助言や多職種による継続支援が推奨されている (Heather M.W, 2017)。本研究で示された「妊娠中はリスク情報を希望しやすい」という特徴も踏まえると、外来受診時や両親学級等の機会を活用し、家族単位で必要情報を整理しながら、出産後の生活を具体化する支援を計画的に提供することが有用と考えられる。

周産期の看護ケアは、妊娠中、産褥期、育児期と時期に分かれた専門的なケアが実施される。しかし、この妊娠中から育児期への移行期の連携が重要であり、妊娠中から継続した支援が積極的に行われるよう配慮すべきである。

出産後に看護職に希望するケアは「出産後の休息時間の確保」が最も希望の高いケアであった。本研究における対象者は管理入院を64.3%の女性が経験しているが、出産後の入院期間は約1週間であり、単胎

児出産とあまり相違がなかった。管理入院により体力が弱ったり筋力が低下したりしていることに加えて、帝王切開術もしくは2人の出産による身体的な疲労を体験している過酷な状況で、出産後1週間の間に2児の育児をある程度習得しなくてはならない。Rubin (1984/1997) は「女性が自身か子どもに強いストレスや強い痛みがある時、新生児と絆を自ら否定すると言及している。そして、安らぎのある平和、痛みを癒す平穏さ、新生児との暖かい接触豊かな非言語的交わり」が必要と述べている。双胎妊娠した女性は、出産後に双胎妊娠で増大した子宮を戻そうとするからだのメカニズムによってだけではなく、子宮弛緩予防のため子宮収縮剤を投与されるため後陣痛が強い。さらに、帝王切開術を受けた女性は創部痛による激痛や頭痛、貧血など身体的な回復途中の痛みが持続するなかで二人の育児が開始される。双子が早産となることも多く、子どもの成長・発達に対する新たな不安が出現して緊張感が持続している状況で平穏とは言えない環境である。

本研究では、産褥早期のケアとして「家族でゆっくり面会できるような配慮」「痛みを和らげるケア」に加え、「双子との豊かな時間を過ごすための配慮」が妊娠中・出産後のいずれの群においても高い希望を示していた。これらの結果から、双胎妊娠を経て出産に至った女性に対しては、身体的負担の軽減とともに、家族とともに双子と向き合う時間を確保できる環境整備や関わりが、安心感や心理的安寧感 (well-being) を支えるケアとして重要であると考えられる。出産後のケアにおいて、妊娠中の女性と出産後の女性の間で統計学的に有意な得点差が見られたケアは、「出産までの努力を認め、共感した関わり」であった。これは、双胎妊娠という高リスク状況を経て出産に至った経験が、出産後に自己の努力や体験を振り返り、承認される関わりを求める心理的ニーズとして表出した可能性を示唆している。さらに、出産後の女性がより強く求める傾向にあったケアとして、「双子のためにベストを尽くしたい気

持ちを理解した関わり」「双子の生命力を実感できるような関わり」「無事に出産するまでの気持ちを、出産後にゆっくり聞いてほしい」が挙げられた。これらのケアは十分に実践されているとは言えず、双胎妊娠というハイリスクを乗り越えた女性の心に寄り添う支援の充実が求められる。

研究の限界と今後の課題

本研究において、妊娠中 (回答時) の対象者数が少なかったため、妊娠中群で得られた結果は推定の不確実性が大きく、双胎妊娠女性全体に一般化 (外的妥当性) する際には慎重な解釈が必要である。さらに、本調査は多胎サークルおよび助産院の産後ケア利用者を主な募集経路としており、支援資源へアクセスしている女性が含まれやすい可能性があることから、支援状況が異なる双胎妊娠女性にも同様に当てはまるかは検討を要する。

本研究は双胎妊娠した女性が自ら回答した「希望するケア」に着目して検討したため、パートナーや家族員がどのような支援を必要としているか、また家族内の役割分担や支援資源の調整に関するニーズについては十分に検討できていない。今後は、双胎妊娠・育児を取り巻く支援を家族単位で捉え、家族員の支援ニーズや支援体制の在り方を明らかにする研究が求められる。

なお、多胎サークル管理者による周知やSNSを介した案内を含む募集であったため、調査案内の到達人数を特定できず、回収率は算出できなかった。

加えて、本研究は横断的調査であり、妊娠中群は妊娠中の状況に関する回答に加えて、出産後から退院までのケアについては「これから経験する内容」を想定して回答した可能性がある。一方、出産後群は妊娠中および出産後から退院までのケアについて、多くの者が「すでに経験した内容」を回顧して回答したと考えられる。したがって、実際の経験の有無による認知や期待の変化 (成熟/マチュレーション) が回答に影響し、群間比較に影響した可能性を否定できない。このため、本研究結果は「妊娠中の期待」と「出産後の経験を踏まえた回

顧的期待」の差として慎重に解釈する必要がある。今後は妊娠中から産後まで同一対象者を追跡する縦断研究により、経験の影響を検討することが望まれる。

謝辞

本研究にご協力いただきました研究参加者の皆様に深く感謝申し上げます。本研究は、JSPS 科研費（基盤 C）（課題番号 21K10860）の助成を受けて実施した。

引用文献

- (1) Bowlby, J. The nature of the child's tie to his mother. *International Journal of Psycho-Analysis*. 1958, 39, p. 350-373.
- (2) 藤井美穂子. 生殖補助医療によって双胎妊娠した女性が母親となっていくプロセス—不妊治療期から出産後 6 ヶ月までに焦点を当てて—. *日本助産学会誌*. 2014, 28(2), p. 183-195.
- (3) 藤井美穂子. 生殖補助医療後に双胎妊娠した女性の体験と期待する助産ケア. *日本助産学会誌*. 2021, 35(1), p. 11-21.
- (4) Klaus, M. H.; Kennell, J. H. Labor, birth, and bonding. In: Klaus, M. H.; Kennell, J. H., eds. *Parent-infant bonding*. 2nd ed. Missouri: Mosby, 1982, p. 22-109.
- (5) Leonard, L. G.; Denton, J. Preparation for parenting multiple birth children. *Early Human Development*. 2006, 82(6), p. 371-378. doi:10.1016/j.earlhumdev.2006.03.009
- (6) Ooki, S. Fatal child maltreatment associated with multiple births in Japan: nationwide data between July 2003 and March 2011. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 2013, 18(5), p. 416-421. doi:10.1007/s12199-013-0335-9
- (7) Rubin, R. / 新道幸恵, 後藤桂子 (訳). ルヴァ・ルービン母性論—母性の主観的体験—. 東京: 医学書院, 1997, 127p. (原著 1984)
- (8) van den Akker, O.; Postavaru, G. I.; Purewal, S. Maternal psychosocial consequences of twins and multiple births following assisted and natural conception: a meta-analysis. *Reproductive Biomedicine Online*. 2016, 33(1), p. 1-14. doi:10.1016/j.rbmo.2016.04.009
- (9) Vilska, S.; Unkila-Kallio, L.; Punamäki, R. L.; Poikkeus, P.; Repokari, L.; Sinkkonen, J.; Tiitinen, A.; Tulppala, M. Mental health of mothers and fathers of twins conceived via assisted reproduction treatment: a 1-year prospective study. *Human Reproduction*. 2009, 24(2), p. 367-377. doi:10.1093/humrep/den427
- (10) Wenzel, S. J.; Battle, C. L.; Tezanos, K. M. Raising multiples: mental health of mothers and fathers in early parenthood. *Archives of Women's Mental Health*. 2015, 18(2), p. 163-176. doi:10.1007/s00737-014-0484-x
- (11) Whitford, H. M.; Wallis, S. K.; Dowswell, T.; West, H. M.; Renfrew, M. J. Breastfeeding education and support for women with twins or higher order multiples. *Cochrane Database of Systematic Reviews*. 2017, 2(2), CD012003. doi:10.1002/14651858.CD012003.pub2
- (12) Yokoyama, Y.; Ogata, Y.; Silventoinen, K. Risk factor for child maltreatment at 3 years of age in Japanese multiples and singletons: a population-based study. *Twin Research and Human Genetics*. 2024, 27(6), p. 311-317.

doi:10.1017/thg.2024.42

- (13) 林昌子, 中井章人, 松田義雄. データベースからみた ART 妊娠. 周産期医学. 2012, 42(8), p. 1011-1016.
- (14) 日本産科婦人科学会. 産科婦人科用語集・用語解説集. 東京: 金原出版, 2008.
- (15) 日本多胎支援協会. 厚生労働省平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 多胎育児家庭の虐待リスクと家庭訪問型支援の効果等に関する調査研究報告書. 2018.
- (16) 米田哲. 多胎妊娠の基礎知識—注意すべき産科異常—. 周産期医学. 2022, 52(9), p. 1211-1214.

Comparison of Prenatal and Postpartum Care Needs among Women with Twin Pregnancies: A Cross-Sectional Study

Mihoko Fujii¹⁾, Keiko Aizawa²⁾, Yuki Yonekura³⁾

1) Teikyo University of Science, Faculty of Medical Science, Department of Nursing

2) Shonan University of Medical Sciences, Faculty of Health and Medical Sciences, Department of Nursing

3) St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

Summary

Twin pregnancies are associated with higher maternal and neonatal risks compared with singleton pregnancies. Women with twin pregnancies often experience prolonged psychological burden from pregnancy through the postpartum period, indicating the need for continuous support. This study aimed to examine the care expected by women with twin pregnancies from midwives and nurses, based on the assumption that care expectations identified among women with twin pregnancies following assisted reproductive technology (ART) may also be applicable to those with naturally conceived twin pregnancies. In addition, this study compared care needs during pregnancy and after childbirth to explore implications for continuous care.

This quantitative descriptive study employed a cross-sectional design using a web-based survey. Participants were members of nationwide multiple-birth support groups and users of postpartum care services. Data were collected through an anonymous, self-administered web-based questionnaire between July 2021 and December 2022. The questionnaire was developed with reference to care expectations identified in a prior inductive study, and its content validity was discussed among the research team. The questionnaire comprised 28 items covering care expected during pregnancy, care expected during the early postpartum period from childbirth until hospital discharge, and care related to inter-facility collaboration, all rated on a five-point Likert scale. Independent-samples t tests were used to compare mean scores for each care item between pregnant and postpartum women.

Among the 273 respondents, 24 were pregnant (8.8%) and 249 were postpartum (91.2%). Pregnant women reported significantly higher expectations regarding the provision of information about pregnancy-related risks compared with postpartum women. In contrast, postpartum women reported significantly higher expectations for care that acknowledged and empathized with their efforts up to childbirth than did pregnant women. These findings indicate that care needs differ between the pregnancy and postpartum periods. Pregnant women tended to seek information about potential risks, whereas postpartum women tended to desire sufficient rest and emotional support. Overall, the findings suggest that continuous care for women with twin pregnancies should emphasize support that fosters a sense of security and psychological well-being.

Keywords: Twin, Twin pregnancy, Care needs, Perinatal care, Cross-sectional survey